

# 埼玉大学が提案する おもてなし歩行エリアのあるべき姿

「大宮駅周辺地区交通計画」が目指す“人や公共交通を優先したみちづくり、まちづくり”を実現するため、埼玉大学 設計・計画研究室でも、独自に研究を進めています。

平成18年8月には大宮駅西口周辺において大規模な交通実態調査を行い、この結果を踏まえて、西口の“おもてなし歩行エリア”で実施すべき施策や、この施策による効果や影響などの検証を行っています。ここでは、埼玉大学が考えている、西口おもてなしエリアにおける施策展開イメージをご紹介します。

## おもてなし歩行エリアを中心とする施策展開イメージ

“おもてなし歩行エリア”は、駅前広場を中心とする歩行者と公共交通のための空間です。

しかし、現在の西口は、駐車場関連車両が駅近傍まで入り込み、交通渋滞の一因となったり、歩行の安全性や快適性を損ねるなど、“おもてなし歩行エリア”の理想の姿とは、かけ離れた状況にあります。

このため、市が実施を予定している“西口駅前広場とペDESTリアンデッキの改善”や“道路ネットワークの充実”などにあわせて、市民、商業者、行政が協力して、**歩行者と公共交通優先の空間づくりと駐車場関連交通の適切な誘導**を行うことが重要です。

このため、以下のような施策を一体的に行うことを提案します。

### 施策

- 駅前広場周辺道路の通行規制 …… 鐘塚公園周辺道路の通行規制など
- 駐車場関連交通の適切な誘導 …… 駐車場へのアクセスコントロール、駐車場の共同利用など
- 歩行者優先の賑わい空間づくり …… オープンカフェ、イベントの実施など

### 効果

- 安全・快適な歩行空間
- 賑わいのある楽しい空間
- 活気あふれる商店街
- スムーズな駅へのアクセス  
(バス、タクシー等)

